

ヒマラヤを越えるツル

・雨期明けの好天告げる吉兆・

世界の未踏峰になかで最も高いヒマラヤ・ナムチャバルワ(七七八二呎)の初登頂に成功したというニユスが三十日に届いた。昨年の登頂断念の経験を生かして今年は、雨季から乾季に移るモンsoon明けの好天を狙ったのが功をそうして日中合同登山隊の二チームが頂上に立った。ヒマラヤ登山のシーズンは春はモンsoonの雨季入りの直前の五月はじめと秋雨季明けの十月中頃となる。秋はこの雨季明けの好天を予想することが成否の別れ道となるが、この劇的な変わり目の鍵を「ヒマラヤ越えのツルの群れ」が知らせてくれるという。

一九八一年、ヒマラヤの鋭峰・マナスルの登山隊の登頂成功の前日、数百羽のツの群れが次々と八千^ド級の稜線を南に向かつて越えて行くのが確認された。果たして、あくる日は青空が広がり絶好の登山日和となった。五年前のマナスルの秋季初登頂、アンナプルナ峰の成功の時もヒマラヤ越えのツルの華麗な舞いが雨季明けの好天の吉兆となった。

ツルの渡りはユラシヤ大陸の最深部からパミール山脈、天山山脈を越えてタクラマカン沙漠を横切りクンルン山脈を飛び、ジェット気流を横ざりながらヒマラヤ山脈を越えてインドに達する数千^キロ^メの過酷な旅となる。ジェット気

流が南下してヒマラヤを強風で覆われる前で雨季が明ける直前の例年十月十日頃から一週間がヒマラヤ越えの渡りの絶好の季節となる。ツルの群れはチベット高原のどこかの湿原で羽根を休めながらわずかなチャンス statically 待っているのだろうか。

日々の上層天気図を眺めていると十月中旬にわずかな期間だけ好天となったが、ぬけるように澄んだ青空を背景に白銀に輝く稜線を越える白い隊列は、今年も無事に越えただろうか。